

特定事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	東京都北区赤羽二丁目1番1号						
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	合同会社西友 代表社員 ウォルマート・ジャパン・ホールディングス合同会社 職務執行者 野田 亨						
特定事業者の主たる業種	総合スーパー						
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））						
計画期間	平成22年 4月 ~ 平成25年 3月						
基本方針	平成21年度を基準として、計画期間中に3%以上の温室効果ガスの削減を目指します。						
推進体制	企業コミュニケーション部はサステナビリティ推進事務局として各部門の責任者と毎年目標を設定し進捗・達成状況は、四半期ごとにCEOや各部門責任者に共有され、サステナビリティ活動の推進に繋がっています。						
具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容				
	平成22~24	設備保全部門	エネルギーを効率的に使用しメンテナンスを的確に行うことにより地球温暖化ガスの排出の抑制を図る				
	平成22~24	廃棄物部門	廃棄物をゼロにすることを最終目標として、廃棄物の発生抑制、リサイクルに努めます。				
	平成22~24	店舗部門	取引先と協力し、容器・包装の削減に努めます。				
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） (21)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度（計画） (24)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	報告年度（実績） (22)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (実績)	
	A 事業所等排出区分	5,201.8 t	5,043.2 t	-3.0 %	5,298.3 t	1.8 %	
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%	
	C その他排出区分	t	t	%	t	%	
	排出合計	5,201.8 t	5,043.2 t	-3.0 %	5,298.3 t	1.8 %	
実績に対する自己評価	高効率照明への転換、照明間引きなどを行ったが猛暑など気候の影響により基準年度を超過した。						
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）
	店舗	二酸化炭素換算 (延床面積41,740㎡)	0.125 t-CO2/㎡	0.121 t-CO2/㎡	-3.2 %	0.127 t-CO2/㎡	1.5 %
		二酸化炭素換算			%		%
		二酸化炭素換算			%		%
実績に対する自己評価	高効率照明への転換、照明間引きなどを行ったが猛暑など気候の影響により基準年度を超過した。						
地球温暖化対策貢献量	対策等の区分	目標年度（計画）		報告年度（実績）			
		取組量等	(二酸化炭素換算)	取組量等	(二酸化炭素換算)		
	森林の保全及び整備	(整備面積) ha	(吸収量) t	(整備面積) ha	(吸収量) t		
	市内産の木材の利用	(利用量) m³	(削減量) t	(利用量) m³	(削減量) t		
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量) kWh	(削減量) t	(発電量) kWh	(削減量) t		
	グリーン電力の購入	(供給量) GJ	(削減量) t	(供給量) GJ	(削減量) t		
	グリーン電力の購入	(購入量) kWh	(削減量) t	(購入量) kWh	(削減量) t		
	家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	(購入量) t	(削減量) t	(購入量) t	(削減量) t		
削減量等合計		t		t			
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	長期的な視野に立って、地球環境の保全、地域社会の繁栄、より多くのお客様・従業員の健康と発展などに取組むために、サステナビリティの取組みを事業活動と一体を成す不可欠な活動として、全社をあげて推進しています。						
特記事項							

- 注1 該当する□には、レ印を記入してください。
- 注2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のそれぞれの年度をいいます。
- 注3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
- 注4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（製造品出荷額、延床面積、走行距離等）を記入してください。
- 注5 「地球温暖化対策貢献量」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
- 注6 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。
- 注7 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。

